

平成13年度 最上川水系流域委員会村山地区小委員会  
(第4回)の議事概要

1. 開催日時

平成13年8月8日(水) 10:00~12:00

2. 場 所

パレスグランデール(山形市荒楯町1-17-40)

3. 出席者(11名)

委 員:前川座長、五百川委員、奥山委員、高橋委員、村形委員、横山委員、吉野委員

地 整:山形工事事務所長、最上川ダム統合管理事務所長

山形県:村山総合支庁建設部長、村山総合支庁河川砂防課長

一般傍聴者:6名

4. 議 題

- (1)最上川水系流域委員会経過報告
- (2)河川整備計画の基本的な考え方と取り組み
- (3)今後の進め方

5. 記者発表等

平成13年7月25日(木) 山形工事事務所ホームページより傍聴希望者を募集

7月25日(木) 山形県河川課から委員会開催及び傍聴希望のチラシを流城市  
町村機関へ掲示依頼

7月25日(木) 山形県庁記者クラブ(16社)、専門紙(4社)に小委員会開催  
投げ込み

8月8日(水) 小委員会取材 山形放送(YBC)

6. 報 告

委員の交代について

杉山 栄治 委員 → 五百川 裕史 委員

小山 政明 委員 → 湯座 明彦 委員

7. 審議結果

(1)流域委員会の報告

河川整備の基本理念と目標について

(2) 河川整備計画の基本的な考え方と取り組み(大臣管理区間)

事務局より河川整備の基本理念と目標について説明をし、主要な治水対策検討資料について事前に頂いていた質問及び回答の紹介、またさらに意見やご質問を頂いた。(資料4, 5)

○基点温泉付近の河道拡幅計画はないのか。

**A：将来の全体計画では、一部大淀から河島山の対岸（基点温泉側）を掘らなければならないと思います。羽越水害規模の洪水を流すためには、基点付近は掘削せずにトンネルによる分水路のみと考えております。**

○大淀トンネルのような事業について他の地区で例があったら教えて欲しい。また、大淀トンネルが非常に有効で一番適当だということであれば、もっと早く考えられ、進められたのではないかと。技術的にこれまで不可能ということだったのか、その辺の背景についてもお聞きしたい。

もう一つは、治水対策としてこれまではダムが万能であると受け止め、そう説明されてきていた。もし、ダムが万能であれば、分水路することは必要ではないのではないかと。洪水時にトンネルを使用することになるのだろうが、どのくらいの割合で使用することになるのかについても教えて欲しい。

**A：最上川におけるダムによる治水の方法は、設置場所の適地の問題等様々な問題があると考えています。トンネルの放水路につきましては、都会では地下にトンネルを掘る例もございます。長島地区は自然豊かな場所であり、トンネルにより水を流すことで、環境に影響を与えずに済むのではないかと。ということで、比較案の一つとしておりますが、例えば赤川の放水路・信濃川の関谷分水などの放水路をこの長島地区において掘削をすると、環境に与える影響が非常に大きくなってしまいます。**

○大淀トンネルではどのくらいの降水量を想定しているのか。また、年間にどのくらい山形県にはそういう大きい水が来るのか。トンネルを掘って本当にそれが飲み込めるのかどうか教えて欲しい。

**A：整備計画の整備目標洪水である昭和42年の羽越水害の時は、総雨量は飯豊町の高峰で363mm、長井では269mm降っています。飯豊町高峰では1時間に39mm、長井では29mm。このような豪雨が降った場合に安全に水を流す計画としています。将来はもっと続けて整備をしなければなりません、当面30年の計画では、戦後最大の洪水を対象とし、安全に水を流すことを考えております。**

○トンネル案に賛成である。現在舟が通っているところの水位よりも少し高いところからトンネルの口を造り、洪水で水位が上がった部分だけトンネルを流れるようにするのが良い。トンネルの出口は本流に対して60～65度ぐらいの角度で水が入っていくと非常に良く吸い込む。出口の角度は川に対して65度で合流することを提案する。直角に合流する場合、支川の水が水堤防となり本川の水が流れていかないようである。そのため合流点直上流の支川では逆流も起きてしまう。本流に入る角度によって随分

水の流れ方が違うと考えている。

- 大洪水の場合しか使わないのであれば、小さいものを造ってもどうしようもないのではないか。トンネルが短いほど水はものすごい勢いで流れる。もともとあの辺りは最上川の中でも急なところであり、水の勢いがすごくなることで一番恐れているのは大石田である。新しくトンネルを掘るとどうなるのかが想像出来ない。トンネルにはそんなに水を流さないから心配ないということだが、上流にまで被害が及ぶ大洪水の時には役に立つのか。地下にトンネルを掘る事例があるということだが、水に親しむ等バランスも考えた上で、十分な検討をしていただきたい。
- トンネルを造る際には、出口の流速等に注意し、悪影響がないようバランス良く、水がスムーズに流れるというふうに造るのが普通であり、水理実験を重ねた上で造るはず。生物達も彼らなりの生きる知恵で、今までの洪水の時も対応してきている。いずれにしても不安が地元を含め当然出てくる。地元の意見等をすり合わせた形でものが出来ていくと考える。大淀地区は岩盤が多いのでそう心配はしていない。
- 大淀の場合、流れる時通り道が狭いために水位が上がっている。その水位を下げるといふ形で、穴を開けて水を通してやるのがトンネルだが、下流もその水に対処出来るように出来ているはず。

**A：上流にある白川ダム・寒河江ダム・大久保遊水地は、大石田を守るための施設ですが、そういう施設が出来ても、大淀地区というのは天然の岩場で、水が通りにくかったわけです。そこを解決しないことには、村山地方の盆地が危ないということで今回いろいろな案を考えたわけでございます。トンネルの有無に関わらず流れる洪水の量は同じなのですが、大石田への洪水到達時間が短くなり、水位が若干上がりますが、下流で上がる水位は微々たる程度で、殆ど影響は無いと思います。ただ、低い橋の改善・無堤箇所整備等については、大石田の方でも進めてまいります。**

(3) 河川整備計画の基本的な考え方と取り組み(知事管理区間)

事務局より最上川水系河川整備計画の目標と基本的な考え方について説明をし、各圏域のメイン事業について事前に頂いていた質問及び回答の紹介、またさらに意見やご質問を頂いた。(資料7, 8)

○須川にはカワセミがいるが、カワセミが巣を作れるような崖を残す工事をして欲しい。また、コンクリート護岸に人工的な巣穴を作って成功した例もあるので、自然のままの崖が残せない場所にはそういう配慮をして欲しい。

**A：すべてを護岸で固めるわけではございませんので、洪水流下能力が可能であれば残せる場所を残して整備を進めていきます。人工的な巣穴につきましても、そういった事例の資料を取り寄せ、現地を見て、専門家のアドバイスを受けながら進めていきたいと思っております。また、コンクリート護岸を覆土し、自然に欠けるような穴を掘ることについても考えております。**

○馬見ヶ崎川において地元の木ではないものを植えているところがある。河川の持つイメージが変わってくるので、十分考えた上で工事を進めてもらえればありがたい。また、植栽の際には誰がどこから運んできたか等についてきちんとした記してある木の戸籍を残して欲しい。そういう経緯がはっきりしないと、後に山形県の植生は全く違うものになり手のほどこしょうがなくなってしまう。

**A：河川改修の時に河川の中から消えた地元の木が、現在また中州に戻ってきているところもあり、流下能力に支障がなければ、木はそのまま残しております。繁殖力の強い外来種についてはすべて伐採するというのではなくて、なるべく間伐をして日陰を作るようにしております。周辺の景観、広い範囲で見直して違和感のないような植生もしていきたいと思っております。**

○山形の街を東西で挟むように馬見ヶ崎川と須川が流れているが、人が集まるのは街に近い馬見ヶ崎川である。実際、いろいろな形で整備が進められており、大変親しめる空間となっている。それに比較して須川の方は整備が進んでないように思う。一昨年から花火大会が須川に移ったこともあり、これからは人が集まる機会も増えてくるだろう。出来るだけ水に親しめる空間を須川の流域にも作って欲しい。

○土地が広い国を見ると、川幅も広く洪水が起きない場所に家を建てている。ところが日本はそうはいかない。また、自然環境のためにも県内に生育している植物を多く植栽した方が良い。道路を走る場合でも山の木と植栽を自然に見えるよう合わせた方が良い。